

## プランター1個からすぐできる 落葉を使ったプチ菜園



### 小宮山洋夫（なみお）さんの方式

小宮山さんは、東京都心の屋上で、20年以上、落葉と油粕と少量の土だけで、60種類以上の野菜を作ってきたそうです。

### この方式のメリット

- ① 落葉は焼却しないで、活かしたいものです。堆肥にするための場所がない、とあきらめる必要はありません。秋に落ちた落ち葉をすぐ、植木鉢やプランターで、落葉を使って栽培が始められる方法があります。その人の条件に合わせて少量の落葉からすぐ利用できます。
- ② 植木鉢やプランターで、野菜などを栽培しようというとき、土がない場合は買ってくる必要があります。落葉を使うこの方法だと土の量が半分で済むので経済的であり、土よりかなり軽いので、ベランダにも置きやすく、持ち運びもラク。
- ③ 生ごみ堆肥との組み合わせで、肥料としてのバランスもとれ、さらにごみ減量となります。

### ノウハウ

- (1) 秋に落ちた葉をそのまま利用する。落葉には微生物がたくさん生息している。落葉は針葉樹とイチヨウの葉以外ならなんでも使える。(針葉樹、イチヨウの葉も時間をかければ、分解して土の養分になる。) 春の笹の葉、常緑樹の落葉もOK。(常緑樹は分解しにくいので、半年ぐらい風雨にさらしてからの方がよい。)
- (2) プランター、植木鉢などに、油粕か生ごみ堆肥を少量ずつ混ぜながら落葉をギッシリ詰める。ギュウギュウ詰めるとかなりの量が入る。
- (3) 黒土を一番上に3~4センチのせる。水を撒く。
- (4) すぐ、種を蒔くか、苗を植える。(しばらく寝かせておいても良い)
- (5) 下に詰めた落葉は雨などの水分を含んで、発酵し、だんだんへこんでくる。とっておいた落葉を表面をおおうようにのせていく。生ごみ堆肥または油粕を少しずつ混ぜ合わせる。追肥となる。

\* 秋の落葉は多めにしておいて、すぐ使わない分はポリ袋かダンボールに詰めて保管しておくといい。密封しないようにする。

\* 好気性発酵になるよう、こころがける。水分50~60%に保つと酸素が通り、好気性発酵となる。水分が多すぎると嫌気性腐敗となり悪臭がするので気をつける。



家庭菜園の達人・小宮山さんの本  
「図解 おいしい家庭菜園 コツのコツ」

小宮山洋夫著

小学館 2000年4月発行 1575円

\* その他、子供向け絵本など各種発行されています

## 我家の三坪菜園

H20. 4 埼玉県志木市 S



我家の庭は狭い上にまわりに木があり、根が張っています。木から少し離れたところも、瓦礫や砂利が多くて直植えできる場所は、開墾してやっと畳1枚分ぐらいです。

住みはじめて約15年、コンポスター2個で、生ごみと落葉を堆肥化するほか、生ごみのいろいろな自家処理堆肥化法を試しては、土や植木鉢に撒いてきました。作物をつくってみても、あまりうまくいった感じがしませんでした。3年前ぐらいにみつば、パセリと花々の勢いがよくなってきたことを感じました。

一昨年秋に落葉と油粕を混ぜて直接プランターに入れ堆肥化しながら、作物をつくってしまう方式(小宮山方式)を知り、知人から中古プランター(150円ぐらいで売っている普通のプランター)を30個いただいたのを機会に、菜園づくりに身を入れてとりくみはじめました。植木鉢や、大きめプランターも少しあります。

私は油粕ではなく、ダンボール箱利用の生ごみ堆肥を混ぜています。他に肥料は入れていません。もちろん無農薬です。無農薬・無化学肥料で農業をやっている人が共通して言っている、微生物の力・・・良い微生物(腐殖質)が土に多くなってくると、作物のできがよくなる・・・というのに近い実感がえられそう・・・というところまでできています。写真参照

プランター・プチ菜園でまず、おすすめなのは、細ネギです。買って来た根付き細ネギの下の部分2センチぐらいを残して切り、土に差し込んでおくと、新しく伸びて、食べられるようになります。薬味にベンリ。

埼玉県の在来種の細ネギである岩槻ネギもよくできています。

みつばは、日陰でも育ちます。

この栽培法だと、柔らかい葉だけを採れば、冬以外は食べられます。



パセリやニラも半日陰でできます。

ニラは、根元を切って根を残しておけば、また、伸びて食べられます。

パセリは主根が縦に深く張るので、25センチ以上の深めのものがおすすめです。

オクラ、つるなしキヌサヤも深めの植木鉢かプランターがよいようです。



秋の落葉利用の2年目となる今年また、いろいろな野菜や花を試しています。



\*くわしくは、埼玉エコ・リサイクル連絡会 資源循環委員会へお問い合わせください。